

子どもたちに明るい未来を!!

暑い日が続く今日この頃、元気に登校する小学生、自転車です。沼山の荷物を背中に登校する中学生、そして急いで電車が滑り込む高校生と、時代が変わっても変わらない光景があります。子どもたちが生まれ育つていく原点、それは歴史ある国見町です。自然豊かな環境、地域の方々の思いやり、人は恵まれている事に気付かず過ぎていていることが沼山あります。先人たちが築いてくれた歴史を見つめ直し、丁寧に伝えていく方法を考えていく必要があると思っています。



安齋 裕子さん  
(泉田下町内会)

将来に繋がる基本となるのがスポーツ、学習、仲間作りなどたくさんあります。家庭・学校・地域・行政が連携し、質の高いレベルに底上げしていければと願っています。例えばスクールバスです。国見小に統合してから6年が経過しました。その間、児童数も減少し、活用方法など見直す部分もあるのではないのでしょうか。また町内の空き家の活用です。集いの場（勉強・仲間作り・高齢者の憩いの場）として、子どもから高齢者まで共生できる町づくりが出来れば幸いだと思っています。

国見町にも東日本大震災の恐怖を経験した子どもたちが沼山います。風化させないためにも私たちはしっかりと現実を見つめ、子どもたちがスポーツに興味を持ち、学習意欲が出る環境づくりを応援できればと思っています。そして、その子どもたちが成長した時に、より良い「町づくり」に貢献できることを楽しみにしています。

長崎県雲仙市へ表敬訪問



5月31日、旧国見町がある長崎県雲仙市を表敬訪問しました。  
東日本大震災の際に支援を頂いたことに対するお礼や当町の復興状況を報告し、懇談することができました。（詳細は15ページをご覧ください）

東日本大震災から7年が過ぎ、道の駅国見あつかしの郷は、開業1年1カ月で200万人の来場者を達成するなど、国見町の復興も順調に進んでいます。

また、4月にくみに農業ビジネス訓練所が開所し、町の農業のモデル施設になるものと思われま。阿津賀志山の二重堀は国指定史跡への追加指定となり、歴史を生かした取り組みが展開されることとなります。

議会も町とともに、住みたくなる町づくりに取り組んでいきたいと思ひます。今後ともよろしくお願ひします。  
(村上 正勝)

- 発行責任者 東海林 一樹
- 議長 東海林 一樹
- 広報常任委員会
- 委員長 松浦 和子
- 副委員長 村上 正勝
- 委員 東海林 一樹
- 同 八島 博正
- 同 佐藤 定男
- 同 井砂 善榮

